

プロジェクトマスターのアップデートについて

 Money Forward
クラウド会計Plus

 Money Forward
クラウド個別原価

 Money Forward
クラウド経費

 Money Forward
クラウド債務支払

目次

アップデート概要 [03](#)

アップデート詳細 [06](#)

マスタ項目の変更点	07
CSVフォーマットの変更について	10
クラウド経費・債務支払におけるAPIの変更について	12

アップデートまでのスケジュール [14](#)

プロジェクトマスタの共通化方針と事前整理について [17](#)

プロジェクトマスタ共通化の方針	19
各項目の共通化の詳細	21
アップデート後のプロジェクトマスタの登録内容を確認する方法について	25
プロジェクトマスタの事前整理について	28

アップデート概要

プロジェクトマスタが共通化されます

クラウド会計Plus・クラウド個別原価・クラウド経費・クラウド債務支払のプロジェクトマスタが共通化されます。

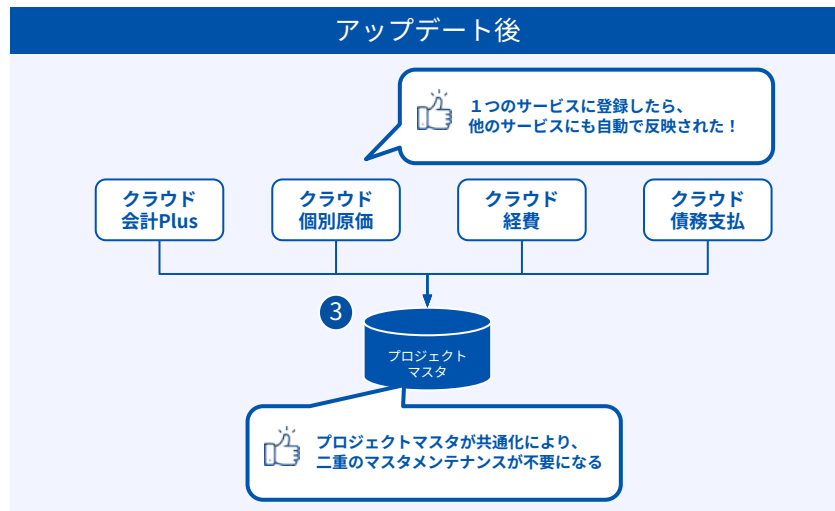
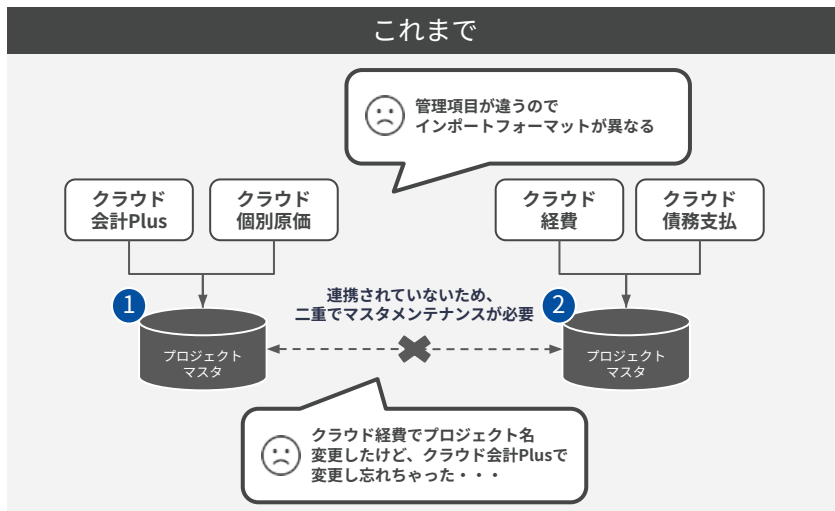
これまでプロジェクトマスタは大きく2つに分かれておりました。

- 「クラウド会計Plus・クラウド個別原価」で管理しているマスタ (①)
- 「クラウド経費・クラウド債務支払」で管理しているマスタ (②)

そのため、①と②を併用されているお客様は、

それぞれのマスタを二重でメンテナンスしなければならず運用負荷がかかるという課題がありました。

今回の機能アップデートにより、プロジェクトマスタが共通化 (③) され、マスタ管理の工数を削減することが可能となります。



アップデートに伴うお客様への影響

現在ご利用されているサービスによって、本アップデートに伴う影響範囲が異なります。
該当するケースについてそれぞれご確認ください。

サービスご利用状況	影響範囲	お客様にてご対応いただきたい事項	
		事前確認	事後対応
① クラウド会計Plus クラウド個別原価	マスタ項目、CSVフォーマットが変わります。 →P7、10へ	必要に応じて 実施	必要に応じて 実施
	マスタ項目、CSVフォーマットが変わります。 →P7、10へ	必要に応じて 実施	必要に応じて 実施
	APIの仕様が変更となります。 APIをご利用の場合はご確認が必要です。 →P12へ	2025/07(予定)~ 2025/12末(予定) の期間に実施	
① と ② 両方をご利用	① と ② のマスタが自動で統合され、 共通化されます。 移行要件を確認のうえ、必要に応じて アップデート前にマスタ整備を実施ください。 →P17へ	必須	必要に応じて 実施

アップデート詳細

マスタ項目の変更点

アップデート後のマスタ項目

「新規追加」となっている項目においては、アップデート後に必要に応じて更新をお願いします。

新マスタ項目	入力必須	旧マスタからみた変更点		項目概要
		クラウド会計Plus クラウド個別原価	クラウド経費 クラウド債務支払	
コード	●			
プロジェクト名	●			
開始日	●		新規追加	プロジェクトの「開始日」と「終了日」を設定し、期間外のプロジェクトは選択不可とすることが可能
終了日			新規追加	
責任者			新規追加	プロジェクトの「責任者」が設定可能
副責任者		新規追加	新規追加	プロジェクトの「副責任者」の設定が可能
親プロジェクト		新規追加		プロジェクトの階層構造を持たせることが可能 アップデート時点では帳票などの各種データの影響はなし
有効/無効	●	新規追加	名称変更 (旧名称：表示フラグ)	無効の場合、仕訳や経費明細などの登録時に選択不可となる ※但しクラウド会計Plusのみ留意事項あり、次ページ参照
表示順	●		名称変更 (旧名称：表示優先順)	

アップデート後のマスタ項目 クラウド会計Plusにおける「有効/無効」の留意事項

今回のアップデートに伴い、「貸借対照表」科目を使用した仕訳の取引日が、プロジェクトの「終了日」以降の場合でも、プロジェクトが**選択可能**となります。（現在は、期間外のプロジェクト選択は不可）

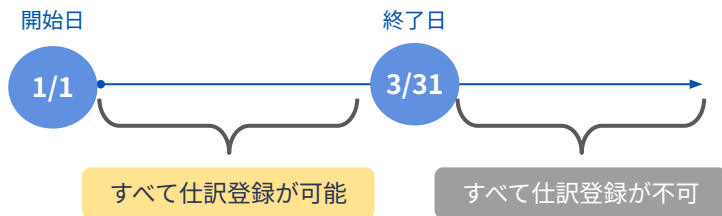
プロジェクトが「無効」の場合には、一律**選択不可**となります。

※「損益計算書」科目を利用した仕訳の登録・編集では、プロジェクトが有効かつ取引日がプロジェクト期間内であるものが表示されます。

【例】開始日：1月1日、終了日：3月31日のプロジェクトの場合

現在の仕様

プロジェクトの「終了日」以降、仕訳登録不可



アップデート後の仕様

プロジェクトが「有効」の場合



プロジェクトが「無効」の場合



CSVフォーマットの変更について

CSVフォーマットの変更について

□ CSVフォーマットが変更されます

プロジェクトマスタの**CSVフォーマットが変更**されます。

アップデート後は、プロジェクトマスタのインポート時には、新しいフォーマットをご利用ください。

クラウド経費・クラウド債務支払をご利用のお客様のみ

□ CSVによる一括変更の照合方法が変更されます

クラウド経費・債務支払について、CSVによるプロジェクトの一括変更時の照合方法を、

「プロジェクトユニークキー」から「プロジェクトコード」に変更します。

※プロジェクトユニークキーは廃止となり、CSV上にも表示されなくなります。

クラウド経費・債務支払における APIの変更について

クラウド経費・債務支払におけるAPIの変更について

プロジェクトマスタのアップデートにより、一部APIの仕様が変更となります。

APIをcallするツールや、戻り値を利用・保管するツールを持つお客様は、2025年末まで（予定）に新しい仕様の体系に読み替えるよう運用を変更いただく必要がございます。

詳細につきましては、以下に記載の資料をご確認ください。

- [マネーフォワードクラウド経費](#)
- [マネーフォワードクラウド債務支払](#)



アップデートまでのスケジュール

アップデート予定日



現在、2025年7月ごろの
アップデートを
予定しています。

※予告なく変更する場合があります。
※2025年6月ごろに詳細なアップデート予定日をお知らせ予定です。

アップデートまでに、必要に応じてマスタ内容を整理いただくようお願いいたします。

セミナーのお知らせ

事前に必要なマスタ整理や注意事項についてセミナーでもご案内します。
プロジェクトマスタをご利用のお客様は、ぜひ本セミナーにご参加いただきますようお願いいたします。



参加
無料

利用企業様必見！

プロジェクトマスタ
アップデート ご案内セミナー

03.21 金 14:00-15:00
03.27 木 14:00-15:00

Money Forward クラウド

[お申し込みページ](#)

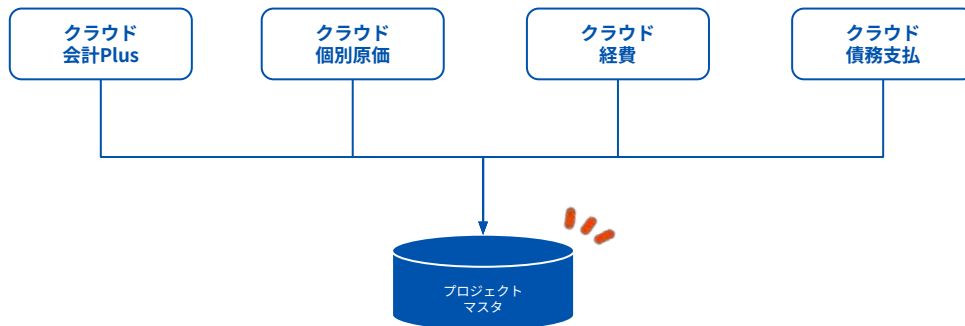
[【利用企業様向け】プロジェクトマスタアップデート ご案内セミナー](#)

プロジェクトマスタの共通化方針と 事前整理について

※ここからは、「クラウド会計Plus・クラウド個別原価」と
「クラウド経費・クラウド債務支払」を併用しているお客様向けの内容となります。

マスタの共通化に伴う確認事項について

これまで別々で管理していたプロジェクトマスタが共通化されるため、一部マスタの移行が発生し、事前整理が必要となる可能性があります。



次ページから下記内容についてご案内いたします。

- プロジェクトマスタ共通化の方針
- 各項目の共通化の詳細
- アップデート後のプロジェクトマスタの登録内容を確認する方法について
- プロジェクトマスタの事前整理について

プロジェクトマスタ共通化の方針

プロジェクトマスタの共通化の方針

共通化の方針

それぞれのプロジェクトの「コード」をもとに、同じプロジェクトか判断します。

※同じコードのプロジェクトがある場合、プロジェクト名称は「クラウド会計Plus・クラウド個別原価」で登録されている名称が引き継がれます。

クラウド会計Plus・クラウド個別原価のプロジェクト

コード	名称
A	プロジェクトA
B	プロジェクトB

クラウド経費・クラウド債務支払のプロジェクト

コード	名称
A	プロジェクトA*
C	プロジェクトC

共通化後のプロジェクト

コード	名称
A	プロジェクトA
B	プロジェクトB
C	プロジェクトC

各項目の共通化の詳細

各項目の共通化の詳細(1/2)

項目	コードが一致するプロジェクト	コードが一致しないプロジェクト	
		クラウド会計Plus・クラウド個別原価 にのみ存在	クラウド経費・クラウド債務支払 にのみ存在
プロジェクト名			クラウド経費・クラウド債務支払に登録されている名称が引き継がれる
開始日 ^{※1}	クラウド会計Plus・クラウド個別原価に登録されている内容が引き継がれる	クラウド会計Plus・クラウド個別原価に登録されている内容が引き継がれる	「1900/01/01」が開始日として設定される
終了日 ^{※2}			空欄の状態を設定される

※1：クラウド経費の明細日付、またはクラウド債務支払の支払依頼の費用計上日として登録されている日付が、クラウド会計Plus・クラウド個別原価で設定されている「開始日」よりも前の日付である場合は、「1900/01/01」が開始日として設定されます。

【例】

- ・クラウド経費で該当プロジェクトを選択している経費明細の日付：2022/04/01
 - ・クラウド会計Plusで設定している開始日：2024/12/31
- ⇒上記の場合は、「1900/01/01」が開始日として設定される

※2：クラウド経費の明細日付、またはクラウド債務支払の支払依頼の費用計上日として登録されている日付が、クラウド会計Plus・個別原価で設定されている「終了日」よりも後の日付である場合は、「9999/12/31」が終了日として設定されます。

【例】

- ・クラウド経費で該当プロジェクトを選択している経費明細の日付：2024/12/31
 - ・クラウド会計Plusで設定している終了日：2022/04/01
- ⇒上記の場合は、「9999/12/31」が終了日として設定される

プロジェクトマスタの共通化の方針 | 各項目詳細(2/2)

項目	コードが一致するプロジェクト	コードが一致しないプロジェクト	
		クラウド会計Plus・クラウド個別原価 にのみ存在	クラウド経費・クラウド債務支払 にのみ存在
責任者	クラウド会計Plus・クラウド個別原価に登録されている内容が引き継がれる	クラウド会計Plus・クラウド個別原価に登録されている内容が引き継がれる	空欄の状態を設定される
表示順			クラウド経費・クラウド債務支払に登録されている表示優先順の値が引き継がれる
階層	クラウド経費・クラウド債務支払で階層構造があれば、その階層が親プロジェクトとして引き継がれる	階層構造はなしで設定される	階層構造があれば、その階層が親プロジェクトとして引き継がれる
有効/無効*	クラウド経費・債務支払で設定している「表示フラグ」の内容が引き継がれる 【例】 クラウド経費・債務支払にて、表示フラグがOFF（=非表示）の場合は、「無効」として設定される	「有効（=表示する設定）」で設定される	クラウド経費・クラウド債務支払で設定している「表示フラグ」の内容が引き継がれる 【例】 クラウド経費・債務支払にて、表示フラグがOFF（=非表示）の場合は、「無効」として設定される

※クラウド経費・クラウド債務支払における従業員ごとのプロジェクトの表示設定は、以下のクラウド経費およびクラウド債務支払の「表示プロジェクトの初期設定」画面の設定に準ずるかたちとなります。

- ・クラウド経費：https://expense.moneyforward.com/admin_office_display_setting_project_code
- ・クラウド債務支払：https://payable.moneyforward.com/admin_office_display_setting_project_code

補足：「表示順」の共通化イメージ

同じコードのプロジェクトがある場合、クラウド会計Plusまたはクラウド個別原価に登録されている表示順の値が引き継がれます。クラウド会計Plus・個別原価またはクラウド経費・債務支払にしか存在しないプロジェクトの場合は、それぞれで設定している表示順（表示優先順）の値が引き継がれます。

※なお、表示順の値が同じプロジェクトがある場合は、コード順の並びとなります。

クラウド会計Plus・個別原価のプロジェクト

コード	表示順
A	1
C	2
D	5

クラウド経費・債務支払のプロジェクト

コード	表示順
A	3
B	4
E	5

共通化後のプロジェクト

コード	表示順
A	1
C	2
B	4
D	5
E	5

※表示順の値が小さいほど上に表示されます。

表示順の値が「5」で同じなので、
コード順（D→E）の並びになる

アップデート後のプロジェクトマスターの 登録内容を確認する方法について

アップデート後のプロジェクトマスタの登録内容を確認する方法

クラウド経費・債務支払の「管理設定」>「組織」>「プロジェクト」の「本アップデート後のマスタ登録内容は
こちら」をクリックすると、アップデート後のマスタの登録内容をCSVファイル上で確認することができます。

Money Forward クラウド経費

2025年7月に「プロジェクト」管理機能のリニューアルを予定しています。詳細は以下の資料をご確認ください。
本アップデートについての資料はこちら
本アップデート後のマスタ登録内容はこちら

検索条件

プロジェクト名 表示優先順 表示フラグ

表示優先を昇順

検索

プロジェクト管理

プロジェクト名	コード	親プロジェクト名	表示優先順	表示フラグ
東京	A		100	する
千葉	B		100	する
埼玉	C		100	する
栃木	D			



	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	プロジェクトコード	プロジェクト名	開始日	終了日	親プロジェクト名	有効/無効	表示順	コードは一致しているが名称が不一致				
2	MF9Qeva	A	東京	2025/1/1	9999/12/31		有効	100	0			
3	MFcValZ	F	千葉あ	2024/12/1	9999/12/31		有効	100	1			
4	MFCEDT	F	埼玉	1900/1/1	9999/12/31		有効	100	0			
5		CCC	埼玉	2025/1/1	9999/12/31		有効	100	0			
6	MFm7DF	\	D	2025/2/1	9999/12/31		有効	100	1			
7												

事前確認用CSVファイルの見方

CSVファイルの各項目については以下をご参考ください。

列	項目名	内容
A	プロジェクトユニークキー	クラウド経費・債務支払で登録されているプロジェクトはプロジェクトユニークキーが表示されます。クラウド会計Plus・個別原価でのみ登録されているプロジェクトは、空欄となります。 ※なお、アップデート後はプロジェクトユニークキーは廃止となります。
B	プロジェクトコード	現在設定されているプロジェクトコードが表示されます。
C	プロジェクト名	プロジェクト名称が表示されます。 ※コードが同じ場合は、クラウド会計Plus・個別原価の名称が引き継がれます。
D	開始日	プロジェクトの開始日が表示されます。
E	終了日	プロジェクトの終了日が表示されます。
F	親プロジェクトコード	階層構造がある場合に、親プロジェクトのコードが表示されます。
G	有効/無効	クラウド経費・債務支払の「表示フラグ」の設定が引き継がれます。クラウド経費・債務支払で表示フラグにチェックを入れている場合は「有効」と表示されます。クラウド会計Plus・クラウド個別原価のみで登録されている場合は、「有効」と表示されます。
H	表示順	表示順が表示されます。
I	コードは一致しているが名称が不一致	双方のマスタでコードは一致しているが名称が不一致の場合は「1」と表示され、プロジェクト名称はクラウド会計Plus・個別原価に登録されている内容が引き継がれます。 ※こちらの項目はアップデートまでのマスタ整理用の項目となります。

プロジェクトマスタの事前整理について

特にご確認いただきたいパターン

以下のパターンは事前確認が必要となります。次ページの内容もご確認のうえ、マスタ整理をお願いいたします。

パターン1 コードは一致しているが名称が異なるプロジェクト

クラウド会計Plus・個別原価に登録されているプロジェクトの名称で上書きされるので、**アップデート後もそれぞれ別の管理軸として運用をしたい場合は、クラウド経費・債務支払にて別の一意のコード（クラウド会計Plus・個別原価のプロジェクトマスタにも登録されていないコード）に変更してください。**

【例】クラウド会計Plusで「コード：A、プロジェクトA」、クラウド経費で「コード：A、タグB」と登録されていた場合

クラウド会計Plusではプロジェクトとして管理しているが、クラウド経費ではタグ（付箋）のような用途で利用しており、アップデート後も別々の用途で運用する場合は、クラウド会計Plus上では「コード：A、プロジェクトA」、クラウド経費では「コード：B、タグB」といったかたちで重複しないコードを登録する。

パターン2 コードは一致していないが名称は一致するプロジェクト

コードは一致していないので、それぞれのコードで名称が同じマスタが複数登録されます。同一のプロジェクトとして管理したい場合は、**クラウド経費・債務支払で登録されているコードを、クラウド会計Plus・個別原価のコードと一致させてください。**

【例】クラウド会計Plusで「コード：A、名称：テストPJ」、クラウド経費で「コード：B、名称：テストPJ」と登録されていた場合

アップデート後は、同一のプロジェクトとして管理したい場合は、クラウド経費のマスタを「コード：A、名称：テストPJ」のようにクラウド会計Plusのコードと一致させる。

マスタ整理の流れ

パターン1 コードは一致しているが名称が異なるプロジェクト

事前確認用CSV内の「I列：コードは一致しているが名称が不一致」が「1」となっているプロジェクトをご確認のうえ、以下ケースごとにご対応ください。

クラウド会計Plus・個別原価の名称で継続利用する場合	修正の必要はありません。
クラウド経費・債務支払の名称で継続利用する場合	クラウド会計Plus・個別原価のプロジェクト名称を変更してください。
異なる名称を継続したい場合	クラウド経費・債務支払のプロジェクトコードを別の一意のコード（クラウド会計Plus・個別原価のプロジェクトマスタにも登録されていないコード）に変更してください。

パターン2 コードは一致していないが名称は一致するプロジェクト

事前確認用CSVファイル内で重複する名称をご確認のうえ、以下ケースごとにご対応ください。

プロジェクトを統一したい場合	クラウド経費・債務支払のプロジェクトコードを、クラウド会計Plus・個別原価で登録しているプロジェクトコードと一致させてください。
別々のプロジェクトとして継続する場合	プロジェクト名を区別したい場合は、クラウド会計Plus・個別原価またはクラウド経費・債務支払どちらかのプロジェクト名称を変更してください。

各サービスでのプロジェクトマスタの編集方法は以下のガイドもあわせてご確認ください。

- ・クラウド会計Plus：<https://biz.moneyforward.com/support/ac-plus/guide/master/project.html>
- ・クラウド個別原価：<https://biz.moneyforward.com/support/project-cost/guide/project01.html>
- ・クラウド経費/クラウド債務支払：<https://biz.moneyforward.com/support/expense/guide/admin-me/me33.html>

※CSVでの編集方法は[こちら](#)



「マネーフォワードクラウド」が目指す世界

個人事業主、中小企業、中堅企業、上場企業の事業運営に必要なあらゆる
バックオフィス業務をテクノロジーの力により効率化し、生産性の向上に貢献します。

本資料に記載された情報は株式会社マネーフォワードが信頼できると判断した情報源を元に株式会社マネーフォワードが作成したのですが、その内容および情報の正確性、完全性等については、何ら保証を行っておらず、また、いかなる責任を持つものではありません。
本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。
本資料はお客様限りで配布するものであり、株式会社マネーフォワードの許可なく、本資料をお客様以外の第三者に提示し、閲覧させ、また、複製、配布、譲渡することは堅く禁じられています。
本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権は株式会社マネーフォワードに帰属し、事前に株式会社マネーフォワードの書面による承諾を得ることなく、本資料に修正・加工することは固く禁じられています。